

第3学年進路通信 ①

H27.10.5

センター試験志願票を発送しました。

9月30日(水)、249名分の志願票を、学校一括で大学入試センター宛に郵便局から発送しました。在籍312名のうちの約80%にあたります。

今後の流れ

(1)出願受理確認はがき・・・10月27日までに

(2)受験票・・・12月14日までに

それぞれ学校に届き、学級担任を通して配付されます。試験場は受験票の送付によって初めて知られます。昨年度の伊高生は3か所に分かれての受験だったとのことです。

たった1枚の志願票ではありましたが、決められたとおり、指示されたとおりに、丁寧に正確に記入できた生徒は決して多くなかったようです。これから先もしばらく黒色ボールペンを握って書類を書く機会が続きます。**正確に、かつ迅速に処理できる力**を養いたいものです。

平成28年1月16日(土)～17日(日)に実施される平成28年度大学入学者選抜 大学入試センター試験。**試験が持つ意味を整理**しましょう。

今、改めてさまざまな角度から眺めてみたい。

君は①～⑧のどれにあてはまりますか？

- ①国公立大学の1次試験
- ②国公立大学の推薦入試用、AO入試用
(センター試験を課す場合)
- ③私立大学の「センター利用入試」
- ④11月下旬以降の学力伸長度をみる。
- ⑤薄れている実戦感覚を取り戻す。
- ⑥模試とは違う「本物の」入試で緊張感を味わう。
- ⑦私立大学一般入試に向けての予行演習。
- ⑧進学する大学が既に決定している生徒が、進学先の学力レベルを把握する。

少し説明を加えます。

① 国公立大学入試2次試験(個別試験)には、前期日程、後期日程、中期日程(公立大)がありますが、これらはまとめてH28/1/25～2/3に出願することになっています。公立高校入試とは方

式が異なりますので、十分に注意してください。

③ **私立大学のセンター利用入試は、募集定員が極めて少ないため、一般入試と比べて合格水準はるかに高くなります。**センター試験実施前に出願するタイプがほとんどですが、稀に実施後に出願できるタイプがあります。後者の場合、自己採点による結果が判明してからの出願ですから、さらに合格水準は高まります。

このように、「センター利用私大」は、受験料も安く、実際に受験に行く手間も省くことができ、たいへん便利な制度として認識されていますが、“狙って合格を勝ち取ってくる”というのは、現実的ではありません。したがって、私立大学の受験計画を練る際には基本的に一般入試での合格を想定したものを考えるべきです。

④⑤⑥⑦ 11月下旬の河合塾センタープレテストを最後に、模試から遠ざかることになります。その後の1か月余りの間の学力の伸びをみることも必要ですし、全国最大規模で実施される本物の入試を受けることによって緊張感を味わうことが、それ以降の、私立大学入試シーズンを乗り越え、さらには国公立大学入試へ向かっていくために何物にも代えがたい経験です。

⑧ **指定校制推薦で私立大学に合格した生徒は、**敢えて厳しい見方をするならば、伊勢崎高校内で得た評定によって合格したに過ぎません。一律の試験を受けていないわけですから、進学先の実際のレベルが実感できていない状態です。加えて、付属高校からの進学者が相当数おり、彼らは厳しい中学校受験を乗り越え、高校入学後はのびのびと幅広い人間力を高めてきた集団です。したがって、君たちは知力・精神力ともに最後までしっかりと鍛え上げ、気後れせずに堂々と、集団に飛び込んでいく覚悟が必要です。

公募制推薦で国公立大学に合格した生徒は、他の多くの同期生が、センター試験に続き個別試験を乗り越えて入学に至ることを考えれば、やはり彼らの力を把握しておく必要があります。また、国公立大学を最後まで目指す伊高生の仲間たちと机をならべることによって、自ずと気持ちが引き締まることでしょう。